



「余命1ヵ月の花嫁」収益金1500万円を  
財団法人がん研究振興財団へ寄付

乳がんを患いながらも多くの愛に包まれながら24年の人生を生き抜いた長島千恵さんの物語は、TBSで放送したドキュメンタリー「余命1ヵ月の花嫁」をきっかけに書籍化、映画化され、多くの人に届けられております。

この度、TBS、マガジンハウス、講談社の3社は、亡くなった千恵さんが遺したメッセージである「がんの早期発見、検診の大切さ」を広く伝えるために行ってきた「余命1ヵ月の花嫁」に関する様々な事業の収益を、今後のがん研究に役立てていただくため、千恵さんの治療に当たった国立がんセンターの敷地内にある、厚生労働省認可団体・財団法人がん研究振興財団へ寄付いたしました。

寄付人

- ☆ 株式会社 TBS テレビ  
(映画・ライブイベント・電子書籍配信)
- ☆ 株式会社マガジンハウス(書籍)
- ☆ 株式会社講談社(コミック)

寄付額

3社合計 15,012,744円



財団について

財団法人 がん研究振興財団は、1968年9月、厚生省の認可団体「財団法人がん研究振興会」として発足、がん征圧に対する国民の強い願いにより寄せられた浄財によって、がん研究などの助成を行ってきました。